

第3章. まとめ

本資料は、全国 20 地点において、BWIM を用いた大型車の通行実態調査によって得られたデータを分析した。本計測を分析した結果、明らかになったことは次の通りである。

- ① 通行車両の総重量の最大値について検討した結果、24 時間大型車交通量（H11 道路交通センサス）または、トレーラ連結車の通行台数（BWIM による計測）が多い地点ほど、総重量の最大値が大きい傾向にある。
- ② 通行車両の車種別構成比率について分析した結果、大型車混入率が高い路線ほど、大型車の中で 2 軸よりは 3 軸、4 軸と軸数の多い車両が増加する傾向がある。
- ③ 同一地点において昭和 62 年度と平成 16 年度に計測した車種別構成比率を比較したところ、時代の経過とともに車両の大型車の中で 2 軸の車両が減少し、3 軸の車両が増加していることがわかった。
- ④ 大型車の交通状態と橋梁部材の応答との関係について分析した結果、橋梁部材の最大ひずみを生じる交通状態は、最大級総重量の車両が通過する場合のみならず、複数の大型車両が同時に通行する状態もある。